佐渡を世界遺産に

世界遺産登録に向けて

鶴子銀山(20)　松陰の見た鶴子弥十郎間歩

嘉永5（1852）年2月晦日、雪の舞う中、鶴子屏風沢の弥十郎間歩に吉田松陰らは到着しました。入口では、松陰が「一短弊衣」と表現した裂織りの作業着に着替え、案内の地役人松原小藤太と大工2人の先導で坑道に入りました。

手にした「釣りともし」の灯りをたよりに、20間ばかり進むと坑道が左右に分かれていました。その左側の坑道を進み、横木を渡した梯子や、材木を刻んだ梯子を上ったり下りたり、右や左に曲がりながら14～5町ほど歩きました。すると、ほのかな光が見えて、その中で「打声丁々、歌音琅々」として、鉱脈を穿つ者たちがいました。このような場所が5、6カ所あり、そこをすぎると、「樋場」があって、井戸ざらいをするように湧き水を排水していました。

坑内は暑く「満身汗を生ずる」ほどでした。坑道から出ると雪が体に触れ、はなはだ清爽で、まるで「地獄を離れて人間界に出づるが如し」と松陰は述べます。そして、金銀を得るために費やす労力や財力、また人命を損なうことがあることを、金銀を「糞土」の如く考え浪費する者は、「肝を寒うすべし」と指摘します。

松陰らは、翌閏2月1日に春日崎にある砲台、2日に銅床屋で製錬の現場を見学した後、八幡から新穂・潟上・原黒を経て、湊で宿泊しました。その日、加茂湖畔で初めて鶯の声を聞き、「二月已終閏月来」と詩に詠みました。

松陰、22歳。安政6（1859）年10月27日朝、江戸伝馬町の牢獄で刑死する7年前のことでした。

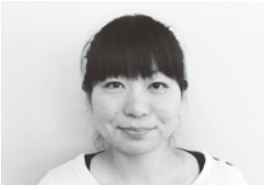
問 産業観光部世界遺産推進課　☎63―5136

「テヘン」は親方や役付が被る（左）と「釣りともし」（右）。（「銀山往時之稼行絵巻」より）

～地域の魅力をサポートします～

われら地域おこし協力隊

集落や家族を思って継承されていくお堂の行事



相川金泉地域担当　小林　美由紀

新年になると、各集落の仏堂で行事が行われます。この1年、集落や家族の無病息災、五穀豊穣、家内安全、交通安全などを願う目的で、ねまり遍路や百万遍など、念仏を唱えたり大数珠を回したりします。

とくに年配世代は信仰心が厚いため、1つ1つの行事を大事に続けています。同時に、みんなで集まっておしゃべりやお茶ができる憩いの時間を楽しみにしていて、お手製のあられや干し柿が目の前に並びます。

私は、地域のことを知るために仏堂での行事にも参加させていただいています。同じ行事でも、集落によって念仏の節に違いがある点がおもしろいと感じています。あちこち参加しているうちに、光明真言をすっかり覚えてしまいました。若い世代へ、行儀だけでなく目的や思いもこの行事を通して継承していってほしいと思います。

北狄集落「生貫観音」での百万遍

地域おこし協力隊活動ブログ随時更新中！

「佐渡島の情報」を地域おこし協力隊の目線で発信中！ぜひ、ご覧ください。

問 産業観光部地域振興課　地域振興係　☎63―4152